

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	1037 行政バス運行経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本施策	51 市内交通機関の利便性を高める	目	06	企画費
		細目	125	バス等対策事業経費
行革大綱の重点事項番号		7	細々目	51 行政バス運行経費
担当部課	コード	700100	担当者氏名	福永 富美子
	名称	大山田支所振興課		連絡先

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	公共交通機関の空白地域における市民(園児・学生・高齢者等交通弱者) ※対象件数 4,273人
成果(どうする)	交通弱者の生活交通手段を確保する。
根拠法令・要綱等	道路運送法、伊賀市行政サービス巡回車の運行及び管理に関する条例
開始年度	平成 16 年度
終了年度	平成 ー 年度
関連事業	
H21 事業内容	運行路線 坂下、大沢、虹ヶ丘線の3路線 運行回数 坂下、虹ヶ丘線1日3往復 大沢線1日3循環 収支率 13.6% 運行業務委託先 三重交通株式会社
社会情勢の変化等	平成16年3月31日三重交通路線バス坂下線廃止に伴い、行政サービス巡回車の運行を同年4月から坂下線、大沢線、同年10月から虹ヶ丘線を開始した。平成18年度から虹ヶ丘地区の小学生が通学に使用している。

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積(延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
運行路線数	路線	目標	3	3	3	3
			実績	3		
運行便数	便	目標	15	15	15	15
			実績	15		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
年間利用者数	需要があるか	人	目標	7000	5000	5000	5000
			実績	4781	4,505		
収支率	継続可能な収支であるか	%	目標	15	15	15	15
			実績	14	13.6		

投入コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
直接事業費計(A)	4,388	4,529	8,590	4,600
Aの財源内訳	国庫支出金		2,200	
	県支出金	255	540	450
	地方債			
	その他	643	619	500
一般財源	3,490	3,370	5,440	3,899
事業投入人件費(B)	0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720
フルコスト(A)+(B)	5,108	5,249	9,310	5,320

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。	
	予算の繰越の有無 無	
【計画に遅れが生じている場合、改善策】		
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
全体コストにおける負担構成は適正である。		
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	現行のサービスの維持と財源確保に努めながら、時刻表の各戸配布などバス利用促進のPRと更なる運行時間やルート等利用実態に応じた見直しの検討を行なう。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる
	【詳細】 三重交通路線バス阿波線のダイヤ改正に伴い行政サービス巡回車のダイヤ改正を行った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	土永 瑞穂
事業の方向性	【方向性】 内容変更
	【理由】 収支率の変動と伊賀市交通計画の見直しに伴い、路線改正、時刻改正を行う。
現時点における課題、その他	使用車両の老朽化による修理と高齢者の乗降補助するステップが必要である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成22年度地域活力基盤創造交付金(関連事業)においてバス車両購入予定である。また、購入予定のバスには補助ステップが装備されている。さらに、地域交通計画に基づき平成24年度から新体制を築く。